



春に池周辺を散歩され、このような卵があることに気付かれた方もいらっしゃると思います。

左がアスマヒキガエル、右がヤマアカガエルで、それぞれのタマゴとカエルです。しかし、残念ながら今年はオタマジャクシになる前に全滅してしまいました。昨年はオタマジャクシにはなりましたが、最終的にほぼ全滅しています。

現在時々みかけるカエルは殿山いきものかかりのメンバーがタマゴの一部を自宅でカエルまで育て戻したものです。

全滅の原因はアメリカザリガニと恩田川から来るようになったカモによる捕食です。ヤゴなどの水生生物も食べられていなくなります。

しかし、根本原因は、池へのパン投げです。昨年の春はほぼ毎日、今年も目撃されました。エサのつもいでしょうが、水質悪化の原因となり、増えるのは繁殖力の強い外来種のアメリカザリガニのみ。そして恩田川のカモがパンを食べにくるようになり、タマゴ、オタマジャクシ、ヤゴなどを食べてしまいます。そして残っているのは泥にもぐる繁殖力の強いアメリカザリガニのみ。

この負の連鎖を止めるために、池の泥上げや看板での注意喚起を行っています。

この池の水源は殿山の湧き水を引いてきたもので、きれいな水です。数年前にはホタルを見たという方もいらっしゃいます。

池に湧き水が流れ込むところには、ホタルのエサになるカワ二十がいます。水源の近くにはサワガニもいました。

子供たちや孫世代にも、多彩で、日本の固有生物が生きる身近な里山を残していきたいものです。